

## 第 14 回消化管 CT 技術研究会に参加して

小樽掖済会病院 平野雄士

さて、久しぶりに消化管 CT 技術研究会の話題です。今回で第 14 回を迎える研究会は 2017 年 6 月 10 日熊本で行われました。

2016 年 4 月 14 日熊本県において震度 7 を観測する地震が立て続けに起こり、熊本から大分の広範な範囲に甚大な被害をもたらしました。折しも、横浜で JRC2016 が開催されたその日でした。CTC トレーニングコースを終え、大切な仲間と食事を済ませ、ホテルに戻ったところでそのニュースが飛び込んできました。しかも、2 日後の 16 日、午前 1 時 25 分追い打ちをかけるような地震が再度熊本に襲いかかります。東日本大震災に続き、こんなレベルの地震が何度も起きるとは、分断されていくような痛みが日本中を駆け抜けました。

まだまだ傷跡の残る熊本ですが、今回は復興支援を旗印に掲げての開催です。代表世話人である坂本崇先生（済生会熊本病院）のお膝元でもあります。今回の当番世話人は松田勝彦先生（済生会熊本病院）が務めており、テーマも「がまだすばい！CTC」（がまだすばい：頑張ろうの意）と復興にかけております。（Fig.1）

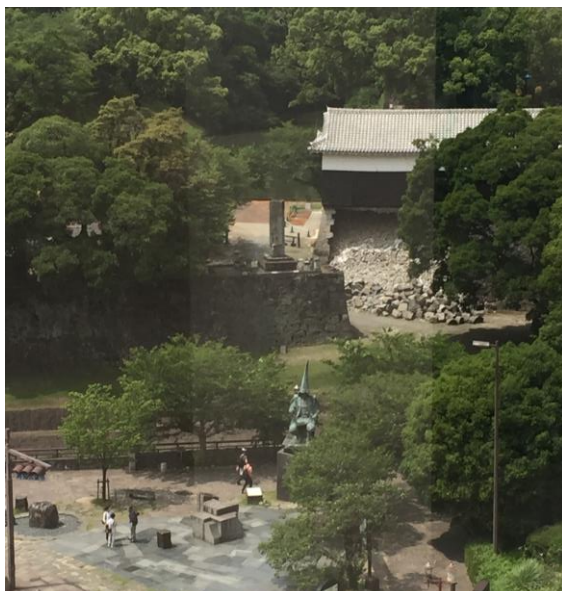


Fig.1 崩れたままの石垣

場所は熊本市国際交流会館、今回で 2 回目の開催です。（Fig.2）



Fig.2 立て看板も立派です。

研究会の内容に入ります。まずは熊本大学の田口奈留美先生の教育講演です。「術前評価としての CTC –FIRST を用いた被ばく低減の試みー」というタイトルです。320 列、FIRST と大腸では数少ない最先端技術の検討であり、昨年の RSNA にも報告したという内容でした。術前撮影における各相の被ばく線量を、FIRST を用いて大幅に低減する方法の提案です。エビデンスを用い丁寧にお話しして頂きました。勉強になりました。

ランチョンセミナーではイーメディカルの宮司さん、鈴木さんが CTC の遠隔読影の話をしてくれました。読影については CTC を行う上で大きなハードルではありますが、それを遠隔読影で解決しようという試みです。さらに鈴木さんは中国の上海で日本の CTC 技術を伝授し、そこからのデータを遠隔読影するというお話しをしていました。驚きました、新しいチャレンジです。

次は一般演題です。1 演題目は大腸肛門病センター高野病院の前崎孝

之先生の「直腸癌側方郭清に対する 3D シミュレーションの試み」です。

直腸癌の側方リンパ節転移が疑われた症例に対し、IMA の分子を描出し、その範囲のリンパ節腫大を描出するというもので、転移の描出能も判定していました。閉鎖動脈、内陰部動脈の描出は良く、上膀胱動脈は難しいというお話しでした。

今回の研究会は、後のセッションで吉川秀司先生 (大阪医大) から「大腸癌術前 3D の造影を極める！」という造影理論、描出能、被ばく全てを網羅した圧巻の講演もあり、術前診断、術前シミュレーションを考える上でとても参考になる内容が多かったです。

2 演題目は亀田総合病院の秋田裕介先生の「大腸 CT における炭酸ガス送気停止前後の腸管拡張評価」です。結論として検査中の送気停止前後で腸管内ガスは減少するが、本スキャン撮影前の再送気により良好な拡張を担保し得ることが示唆されていました。私は以前より、過注入を防ぐためにブラインドタイムでの送気の停止を推奨していますが、裏付けをして頂いたかのような報告でした。

3 演題目は豊田会刈谷豊田総合病院の本多健太先生の「逐次近似再構成法を用いた低線量撮影が大腸 CT 解析に与える影響」です。

FBP と Veo による再構成画像の SD の計測また自動サイズ計測ツールを用いた隆起型模擬病変の計測と VE 画像による各模擬病変の描出能の評価です。考察で述べられていた「自動サイズ計測の改善はノイズ低減ではなく Veo による空間分解能の向上が影響していると考えられる。一方で病変の描出能は改善されず Veo を使用した状態での従来の Air-SD を目安とした線量設定では描出能を担保できないことが示唆された。」についてはつい聞き流してしまったようで、ちょっと疑問な点もあるので、後日確認してみたいと思います。

そして 4 演題目は徳島健生病院の岩野晃明先生の「バリウムを使用した腸管洗浄剤低用量分割飲用法の評価」でした。「バリウムを使用した分割法はタギング力と残液量は従来と同等で、受診者の受容性が向上し、前処置の説明も容易となった」とまとめていました。

現在、前処置については各施設の方法にかなり多くのばらつきがあり、どの方法が良いかの検討も難しく、自検例での評価に頼るしかない状況にあります。私は出来るだけシンプルなほうが良いと感じてい

ますが、皆さんはどうでしょうか？

その後、九州大腸 CT 研究会セッションが有り、吉川さんの講演があり、積水メディカル・エーザイセッションの講演へとつづく、どれも珠玉の講演内容で有り、誤解を防ぐために内容の記述は控えますが、お腹一杯に満足のいく内容でした。常に勉強していかないと、技術はどんどん新しくなっていますね。

次回第 15 回消化管 CT 技術研究会は平成 29 年 11 月 11 日土曜日、福島県のコラッセ福島 4 F <http://www.corasse.com/guide/4f> で行います。今度は東北の復興支援に向けて皆さん集まりましょう。



# 14th CT colonography Technologist Meeting

## 消化管CT技術研究会 in KUMAMOTO

### 熊本市国際交流会館 2017年6月10日 Sat

〒860-0806 熊本市中央区花畑町4番18号 11:00-18:30 参加費 1,000円

大腸 CT を中心とした、消化管画像検査に携わる医療従事者の意見交換とレベルアップを目的とした研究会

**がまだすばい！ CTC**

11:00 - 11:05	当番世話人挨拶	総合司会 吉川秀司 (大阪医科大学附属病院)
11:05 - 11:50	教育講演 共催：東芝メディカルシステムズ(株) 「術前評価としての CT colonography -FIRST を用いた被ばく低減の試み-」	当番世話人 松田勝彦 (済生会熊本病院) 司会：坂本 崇 (済生会熊本病院) 田口奈留美 先生 (熊本大学医学部附属病院)
11:50 - 12:20	一般演題 1	座長：山崎通尋 (山下病院)
12:30 - 13:10	ランチョンセミナー 特別協賛：E-Medical Group 「CTC の普及に遠隔画像診断の活用を！」	司会：山本修司 (東京工業大学 情報生命博士教育院) 富司 順 (株) イー・メディカルソリューションズ 鈴木雅裕 (イー・メディカル東京遠隔画像診断センター)
13:30 - 14:00	一般演題 2	座長：三原嵩大 (東京メディカルクリニック)
14:00 - 15:30	九州大腸 CT 研究会 セッション) 共催：伏見製薬(株) 「みんなで症例検討！ CTC と内視鏡はこう読む」	司会：溝崎克彦 先生 (済生会熊本病院 予防医療センター) 松田勝彦 (済生会熊本病院)
15:40 - 16:40	関連メーカーセッション 共催：アミン(株)/ほか 「CTC 一次チェックレポートに向けた取り組み」 「大腸癌術前 3D の造形を極める！」	司会：小倉敏裕 (群馬県立県民健康科学大学) 鈴木雅裕 (イー・メディカル東京遠隔画像診断センター) 吉川秀司 (大阪医科大学附属病院)
積水メディカル/エーザイ セッション		
16:50 - 17:20	講演 1 「CTC 病変へのアプローチ ~症例画像を中心に~」	司会：松井大樹 (北福島医療センター) 山崎通尋 (山下病院)
17:20 - 18:20	講演 2 「最新の内視鏡技術と CTC に求めるもの」	司会：平野雄士 (小樽療養会病院) 山野泰徳 先生 (札幌医科大学附属病院)
18:20 - 18:25	閉会挨拶	代表世話人 坂本 崇 (済生会熊本病院)
18:25 - 18:30	次回当番世話人挨拶	次回当番世話人 松井大樹 (北福島医療センター)

**10:00~17:00 消化管画像診断に関する機器展示**  
**恒例「情報交換会」あります！**

取得予定単位：日本 X 線 CT 専門技師 認定機構 ポイント / がん CT 検診 認定機構 ポイント

**主催：消化管 CT 技術研究会**  
<http://gict-tec.com>



熊本市国際交流会館  
熊本交通センターより  
徒歩 約 3 分